

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

水野 喜代治

「一期一会…栄男君、元気で！頑張ってください！」

昨年、斉藤栄男君がオーストラリアから城山中学校に転入してきました。日本語も十分に話せなく、日本とオーストラリアの制度や文化が異なる環境の中でも城山中学校の生徒に溶け込もうと一生懸命に頑張っていました。しかし、栄男君が家庭の事情で急遽、オーストラリアに返らなければならなくなりました。そのことを知ってとても悲しい気持ちになりました。

学年委員会を中心にお別れ会を開くことを計画しました。昨日の放課後と今日の朝に早く登校して学年委員や有志の生徒がお別れ会の準備をしました。今日の4時間目に多目的室でお別れ会が無事に開けました。お別れの言葉を3組の加藤亜星君が栄男君におくりました。亜星君は日本語と英語で別れを惜しむ気持ちを栄男君に一生懸命に伝えていました。亜星君の話の聞いていると胸が一杯になりました。駒君が「ひまわりの花束」を栄男君に渡して握手しました。栄男君が「みんな、ありがとう。」とお礼の言葉を言うとみんなが大きな拍手をしました。その拍手が温かくてとても良いなと感じました。

最後に川口君が指揮をして、『大切なもの』を合唱してプレゼントしました。この歌は、桑原先生、櫻井先生とのお別れ会のために練習して作り上げた合唱曲です。この時、栄男君も練習して、担任の先生（桑原先生）と別れた大切な歌です。今その歌をみんなから激励と感謝の気持ちを込めてこめてプレゼントされている。栄男君がみんなの歌を精一杯受け止めている表情を見て私は涙がこぼれそうになりました。そして、栄男君に「ありがとう。頑張っていた君の姿と想いは忘れないからね！離れていても気持ちは繋がっているからね」とエールを送りたい気持ちで一杯になりました。

